

第20回 町田市景観審議会専門部会(評価検証) 会議録要旨

日 時	2015年8月25日(火) 午後2時00分～午後4時00分
場 所	町田市役所8階 8-2会議室
出席者	<委員>(敬称略) 名和田是彦、二井昭佳、渥美益明(3名) <事務局> 地区街づくり課職員(6名)
傍聴者	なし

- 会議内容
- あいさつ
 - 会議の成立（定数確認・欠席者の報告）、会議の公開に関する報告（傍聴者報告）
 - 調査・審議事項
 - ・議題14-03号 「町田市景観計画」の評価検証について

- 配布資料
- 委員名簿
 - 次第
 - 座席表

■議事

- あいさつ
- 町田市景観審議会規則第6条第2項の規定による会議の成立に関する報告
（5名のうち3名の出席により、会議の開催について成立）
- 「町田市審議会等の会議の公開に関する条例」第3条の規定による会議の公開に関する報告
（傍聴者なし）
- 会長・職務代理の選出
（会長は委員の互選により名和田委員に決定、職務代理は会長の指名により鈴木委員に決定）
- 調査・審議事項
 - ・議題14-03号 「町田市景観計画」の評価検証について
 - 【事務局】（事務局より調査・審議事項について資料を用いて説明）
 - 【部会長】 市民意識調査の集計についてクロス集計を行っているが、これについて追加の説明等はあるか。
 - 【事務局】 公表までに改めて精査する必要があると思うが、現在の集計作業の中で分かっているものを例に挙げると、問5「あなたは住まいの地域または市内の景観で、必要だと感じるものがありますか？」という質問に対し選択肢5「緑豊かで散策が楽しめる道路」が特に多い回答となった。この結果に基づきクロス集計では回答別にどの地域の回答者が多かったのかなどを示している。問5の選択肢5「緑豊かで散策が楽しめる道路」では、鶴川地域や南町田周辺の地域の方々から多く回答をいただいていることが、クロス集計で判明した。選択肢6「子どもが水遊びや自然観察が出来るような水辺(河川等)」で鶴川地域の回答者が多い結果とな

ったのも真光寺川が流れているためではないかと思われる。

問4の2は、問4「あなたは町田市内で、魅力を感じる景観がありますか？」で選択肢1「ある」と答えた方が、どういう場所が魅力を感じるか記述する質問だが、これについては尾根緑道や薬師池公園など、緑に関係するような場所について市民の方々が非常に多く関心を持たれているように見られる。その他、境川や恩田川なども多く記述があったが、これについては、その河川沿いにある桜並木がとてもきれいだというような意見が多く、やはり樹木や並木道など、そういったものに関心が向いているのではないかとということが判明した。

【部会長】 中心市街地活性化協議会へのアンケート調査で何か目立った意見は出ているか。

【事務局】 町田市の今行っている景観の取り組みや景観計画などについて知っていますか、と聞かせていただいた所、協議会大半の方より「知らない」と回答をいただいた。市民意識調査の結果も踏まえると、周知活動が十分に行き渡っていないのではないかと考えられる。その他、町田駅周辺のごちゃごちゃした空間が嫌だというような意見や、それを整理して洗練された街並みにする必要があるのではないかとというようなご意見をいただいた。

一方で市民意識調査では、そのごちゃごちゃ感が町田市の特性ではないかという意見もあり、景観のバランスなどを考えながら景観づくりを行っていく必要があるのではないかと感じている。

【部会長】 クロス集計等の結果については了解した。審議に入るが、今回は評価・検証作業として特に重点的に4つの成果指標を審議したい。

まず「市内全域の景観について、非常によいと感じる市民の割合」について、従前値から比べると高まっている。しかし、実践施策としては景観賞などの取り組みを行っているのに50%に達していない。これについてどうか。

「市内全域の」という表現は、アンケート調査票の言い方そのものなのか。市内全域の景観というのは、大ざっぱな表現にも感じられるが、町田市の景観と言われたときに、1つは駅前周辺の非常ににぎやかな風景や遠景の美しさ、町田を輪切るという活動を景観サポーターの方がされて話題になったが、非常にアップダウンが激しい地形から感じられる美しさなどを総括的に、日常の中で町田市を代表している景観として回答者が理解して、その上で回答しているので、むしろここは大ざっぱにしておいたほうがいいのかもかもしれないと思う。その様な町田市が持っている景観スポットのアピールみたいなものを更にするとその数値は上がって、そのことは同時に景観というものに対する町田市民の啓発に繋がるのではないかと感じる。

【委員】 該当する市民意識調査の問2「あなたは現在の町田市内全域の景観について、どのような印象をお持ちですか？」の選択肢3「どちらともいえない」が高い数値であることが気になる。部会長の意見のように、問4「あなたは町田市内で魅力を感じる景観がありますか」では具体的な場所を質問しているが、「町田市の景観の魅力は何か」という質問が今の所無いように見える。

問2の質問が良かったかということについては、個人的には答えにくさもあるのかもしれないと感じるということと、次回に改善するとしたら、「町田市の景観の良いところのイメージは何か。」というようなものを抽象的に聞き出していくというものもあるかもしれないと感じる。それが基本目標Ⅰ「自然の風景を守り育てる」にも絡んだり、にぎわいのことだったり、歴史というような、幾つか答えが出てくれば、よりどの辺りを町田の景観の魅力だと感じている

るのか答えを引き出していけるかもしれないというイメージを受けた。

【部会長】 最初のご意見は、設問がやはり漠然としているので、「どちらともいえない」が多くなってしまったのではないかということである。2番目の意見については、アンケートでの聞き方が難しいかもしれない。

【委員】 アンケートについては、何を意図している質問なのかが分からないと感じた。もし、良くなっているということ在意図して質問をしているのだとすると、時間差を取って、「あなたは、以前と比べて町田市全体の景観は良くなったと思いますか、悪くなったと思いますか。」という質問をすれば「良くなった」と答える比率は多分高くなるのではないか。そうすると、これに付随して、「では、どこがどのように」という質問に続いていけば、方法論として、時間の比較が取れて具体的に引き出しやすいのではないかと思う。先程の質問は、やはり具体的ではない。これでは答えが「どちらともいえない」になるだろう。

「全体としては」と問われてしまうと、この様な結果にならざるを得ないのだろうと思うので、1つ方法として「以前と比べて」とか「何年前と比べて」という時間差をつくって、それに対してどう思いますかという聞き方にすれば、幾らか「どちらともいえない」という答えが減るのではないか。

【部会長】 クロス集計ではどの地域が最も「どちらともいえない」と答えているのか。

【事務局】 忠生地域や中心市街地のある原町田地域が多かった。あとは鶴川地域、南町田地域などである。ただ、「いい」という回答については、全体的に万遍なく票をいただいている。

【部会長】 漠然たるイメージを聞くのも有効だが、それなりの問い方があるのではないかということである。時間差などを聞くという方法があるが、そもそも「市内全域の」という聞き方が「どちらともいえない」に繋がってしまっているのかもしれない。

【委員】 「以前に比べて良くなっていると感じているか」という様な質問は、市民意識調査にない。抽象的で、数字としてはあやふやに出るかもしれないが、そういう部分はあってもいいかもしれない。

【部会長】 前は景観計画策定前であったため、事務局としてはその様な問い方はためらわれたのかもしれないが、今回は可能だろう。

【委員】 「何か緑が増えたような気がする」とか、逆に「どんどん寂れているところが増えている」とか、「ごちゃごちゃしているところが増えた」などといったことを、コメントと一緒に書いてもらえば良いと思う。

【部会長】 町田市の景観を良いと思うかどうかは、色々な要素が絡まって、はじめて出てくるようなことであると思う。それを景観業務担当課が取り組んでいる実践施策だけで、評価するのかという話もあると思う。頻繁に周知不足という言葉が出てくるが、周知していけば色々なところが変わってくるというのではないかと思うのだが。

【委員】 今回の検証項目の大きな柱に、どう周知するのかというのがあのでは。そこが上がると、数字が改善されたり、良い方向に向きそうである。

【部会長】 「非常に良い」、「良い」と感じる市民の割合が増えるということは、客観的に町田市の景観が良くなるのが、その大きな原因となり得るだろうということはあるが、それ以外に景観に対する意識や町田らしい景観について市民が考えたときに、まず浮かぶ幾つかの景観に良くない景観よりも美しいものが沢山思い浮かぶ、そういう状態をつくる。それが市民がつ

くる景観というものに対するプラスの導入になると思うので、その様なイメージを上げていくことが大事であると思う。そのためには、例えば、あるスポットからの遠景が非常にきれいに見えるということを知したり、いろいろな生活風景を形成するための市民地域活動を周知することなど、そういうことが有効なのではないか。数字が上がること自体が自己目的ではなく景観行政、景観づくりにプラスに作用するということがあるので、やはり色々な施策や市民活動、客観的にすぐれた景観などを周知していくということが重要なのかもかもしれない。

実践施策の中には、やればやっただけ効果の上がるものもあるが、それを行っていることを市民が知らないという意味がないような施策もあると思う。その辺は、そのことだけを評価する項目というのは特にないが、やはり、しているということが感じ方にも影響すると思う。

【委員】 市民意識調査の問8「あなたは下記の景観に関する取り組みが行われている事をご存知ですか？」について選択肢8「特にない」が6割を超えているということが、この全体の検証の中での今の周知不足というのに関わってくると思うが、市の景観そのものに対する評価をする以前に、「知らない」という状態があるようである。例えば景観計画や景観賞などの少しポイントが高い取り組みをより重点的に周知項目として挙げて、町田市にどのような魅力的な景観があるのかというのを知ってもらうきっかけをこの景観賞などを通じて図っていく必要があるのではないか、という様なコメントを残しても良いのではないかと感じる。

【部会長】 全体を通ずるのも重要である。このようなコメントは評価・検証作業の総論としてなど、どこかに残せるのか。

【事務局】 評価・検証作業のところに入れるか、最後にまとめとして総評のように入れることも想定できる。

【委員】 評価・検証作業をすべき項目が20項目あるのでそれぞれの改善点や、こういうのが必要だったみたいなのが個々に出てくると、実施できないという状態が逆に出てくるので、まとめで特に重要なものみに絞ったほうがやりやすそうではある。

【部会長】 次に生活風景宣言の登録数についてである。これは実施しているが実績が上がっていないという状況にある。これはいかがか。

【委員】 周知の問題もあると思うが、生活風景宣言の制度については今のところ特に市から市民へお勧めしているわけではなくて、「待ち」の状態になっているのか。宣言だからあまりお勧めするというのはいらないのかもしれないが、来るのを待っているというのも難しそうな印象を受ける。

【事務局】 身近な景観づくりの取り組みの推進のために、市民の方が近所の方たちとされている景観づくりの活動を生活風景宣言として登録し、それを市内に広くご紹介するという制度であるが、その登録活動が2年間以上継続的に行われた場合には、景観賞を授与するというような制度になっている。本当に小さな活動から登録することが可能な制度ではあるが、景観計画策定以降に特別に大々的な周知を行っていなかったということもあり、現在登録なしという結果になってしまっている。

そのため景観賞については、2013年に実施しているが、生活風景宣言から景観賞になったというものはない。

【部会長】 しかし、生活風景宣言という仕組みを通じたものではなかったが、景観賞の受賞を目指して応募、ないしは、推薦があった事例の中で、清掃活動など生活風景宣言に類したものがあつ

たと思う。

- 【委員】 景観計画に入っている制度のため、簡単に変えられないのかもしれないが、そもそも生活風景宣言と景観賞をリンクさせたほうがいいのかという問題もあるのではないかと。例えば民間の企業の地元貢献としての緑地整備や東京都が整備した水辺整備のような、あるプロが入ってしっかりした整備をやったものと、市民の方の地道な活動が横並びになって勝てるかどうかと言われると難しいところがあるように感じる。
- 【事務局】 景観賞にも幾つか部門があり、生活風景宣言に登録される様な活動は景観賞の中でも生活活動景観部門といった部門に入ってくると思われる。そもそも生活風景宣言に登録がなかったので、ここに推薦できるようなものもなく、自主的に推薦された活動などしか今回は景観賞にエントリーしなかった。
- 【委員】 景観賞へのエントリーは、生活風景宣言に登録してから2年間活動をしないとできないということか。
- 【事務局】 そうである。前提としてそこがある。
- 【委員】 景観計画に書いてあるから見直すのは簡単ではないが、少々ハードルが高すぎるように感じる。
- 【部会長】 三輪緑山住宅地など地元の方々の努力があって初めて保たれているとか、景観協定のあるリーフィア小山ヶ丘のようなところも、認可後はやはり地元住民がどのぐらい配慮して景観を保つかということやそれが行われるかどうか重要にある。やはり景観業務担当課だけの取り組みではなかなか難しいところがあり、市民活動を所管している部署などと連携をしてもっと生活風景という観点からも活動支援を試みて、積極的に制度への登録や景観賞へエントリーしてもらおう。そのための庁内連携が必要ではないかと思う。小野路宿通りなどはまさにそのような取り組みが評価されて受賞されている。ここは地区街づくり団体もあり、生活風景宣言になってもおかしくない場所である。
- 【委員】 今回の評価・検証の結果を踏まえて景観計画の見直しに踏み込む必要があるかどうかという話が以前にあったように思うが。
- 【事務局】 見直しが必要になった場合の対象になるのは、例えば景観計画の全体の方針などといった根幹の部分想定している。例えば、制度などに関する見直しについては、随時運用方法について検討していきたい。このようなことに関しては、見直しという形ではなく別に切り離して検討していければと考えている。
- 【委員】 なぜこのようなことを聞くのかと言うと、現在、景観計画の中で生活風景宣言の制度の運用方法が細かく書かれていることが相当重く感じられるからである。活動を市長が認めて登録し、2年間継続しなければ景観賞が付与されないというものだが、生活風景宣言の趣旨をどこに置くかということが問題になるのではないかと感じられる。より気軽に、無理のない範囲で活動する市民を増やすことで、身近な景観に配慮する人々を増やそうとするのであれば、ここまで制度のハードルを上げるべきなのかという疑問がある。
- 【部会長】 この制度は、まだ稼働できていないので、まずはやってみようということがステップとして必要である。やってみて上手くいかなかった場合は、原因を探求してから景観計画を見直すということになるのではないかと思う。地元の活動や市民活動団体、あるいは景観づくり市民サポーターの方々などの協力を得て進められる部分があると思うし、そのためには庁内連携についてもある程度必要ではないかと思う。

- 【委員】 この制度は、それほど高いハードルのあるものではないというイメージがあるのだが、何故登録がゼロなのかというところが疑問である。例えば、恩田川にはサークルで清掃活動を行っている方々があり、何年も行っているはずなので、景観賞を受賞するかどうかとは別の話になるが、制度に登録されて然るべきなのではと思う。南成瀬沿いの恩田川では桜並木が何キロかに渡ってあるが、あの桜並木も誰も手をかけていないはずはないだろう。あの状態を維持するために活動している人達が必ずいるはずなので、そういったものも対象になるのではないか。他にも、すぐ近くには、計画道路付近の除草や花壇の手入れを行っている方々もいる。そういう活動が山のようにあるはずである。
- 【部会長】 地域振興や市民活動支援、地域活動に関係する部署と連携し、情報交換をして制度のアプローチをすれば、登録できるものが出てきそうな気がする。
- 【委員】 この制度について、市民がメリットを感じられる部分があるのか。
- 【事務局】 景観賞が一番大きい。また、登録した活動を市が市民の方へ広く紹介することで、参加者の増加に繋がるかもしれないというメリットなどが見込めるのではと思う。
- 【部会長】 この制度は、庁内連携によってアプローチしていけば、たくさん登録ができるのではないかと気がする。だが、この制度によって、市民の景観意識を高めるという目的もあるが、そのような意味では登録数だけでなく、この制度を通じて何を指すかというところが重要である。
- 【委員】 生活風景宣言に登録された活動を市がホームページを使って広報するのであれば、該当するページに行き行って初めて閲覧できるというつくりのものは、ほぼ閲覧されないと同義になってしまう。参加者層に年配の方が多いのであれば、ホームページよりも市の広報誌の表紙や紹介するページを設けてもらうような、普通に市民が手に取るものの中で周知できるような方法もあわせて考えるとメリットに繋がる可能性があるのではないかと。
- 【部会長】 制度の周知に関してはこちらで該当しそうな活動をピックアップし、そこへお勧めしてあげるとするのが大事であると思う。
- 【委員】 これについては、景観づくり市民サポーターの協力も必要になると思う。色々アプローチすれば、普及していけるのではないかと。これまで、景観計画の策定とその初期的な実施に向けた掘り起こしのようなものが、景観業務担当では中心になっていたと思うが、少しこの分野で、てこ入れすれば、比較的成果が伸びていくと思う。伸びていったアウトプットの持っているアウトカムの意味合いが何なのかということを考えていく必要性の方が、将来的には大きくなるのではないかと。
- 【委員】 次に、「町田駅周辺で長い時間楽しみたいと思う市民の割合」についてである。商都としての町田市の顔という場所についてだが、いかがか。事務局の説明では、雑多なところが良いという意見と、ごちゃごちゃ感が良くないという意見が出ている。にぎわいやエネルギーに結びつくような「ごちゃごちゃ」と、あまり美しくない「ごちゃごちゃ」とは恐らく違うものであるように思うので必ずしも矛盾した意見というようには感じない。
- 【委員】 市民意識調査ではにぎわいを生む空間という回答割合が比較的多かったのが注目すべきところであり、やはり、にぎわいというのがキーワードになるのではないかと。JR線と小田急線間の連絡通路の混雑自体が、美しくないというわけではなく、にぎわいで雑多なところが良いという、そういうものなのだろうと思う。
- 【委員】 ごちゃごちゃしている所と整然としている所と、両方あって「まち」なのだろうと思う。同

- じところでそれが両立することは、恐らく難しいのだろうと思うので、それぞれの要素を含む地域を一体的に「まち」として見るのであれば、矛盾した意見というようには感じない。
- 【委員】 市民意識調査の問7「あなたは町田駅周辺のこれからの景観づくりで、必要だと感じるものはありますか？」という質問で、選択肢に憩い空間という、「ちょっと休んだり、たたずんだりできる場所」がほしいというような声が多く出ている。
- 自由記入で「ほっとできる空間」という意見が出ているが、市民意識調査の結果と照らし合わせると、やはり、そのような場所があるほうがいいのではないかと。ヒアリングでは、ゆとり空間が少ないというような意見も出ているようである。次に多い回答が、花や緑に関する選択肢。自由記入にある「色彩がばらばら」という意見は来街者をまちがお迎えする感じ、花や緑もそうかもしれないが、そういったものが少し改善されると、より成果指標の数値が高くなっていくように感じる。
- 【委員】 町田の駅前に色々な顔があることは、非常に重要だと思うのだが、芹ヶ谷公園のような場所は、駅から全く見えない場所にあり、案内も大きく出ているわけではない。スポットライトを当てようとしているのであれば、もう少し周知活動をするべきだと思う。
- 【委員】 成果指標の数字は、どの様に出しているのか。
- 【事務局】 景観に関する市民意識調査とは別途に行っている市民意識調査より算出している。アンケートの主な意見については、景観に関する市民意識調査より抽出している。
- 【部会長】 駅前空間で憩える空間づくりというのは、商店の前に椅子を置くことなどが考えられるのだろうか。もう少し広く駅前空間を捉えることで、立体的に回遊できるようなまちづくりについて考えることができるのかもしれない。
- 【委員】 新しくオープンスペースを確保できる余裕があればそれを活用しても良いし、そうでなければ、土日限定などにして道路上でオープンカフェが実施できるような体制を整えることなどができると良いかもしれない。
- 【部会長】 これまでにオープンカフェの取り組みは町田駅ではあるのか。
- 【事務局】 まだない。
- 【委員】 横浜市の日本大通りで行われているものは、地元で協議会をつくって道路でオープンカフェを行っている。申請を簡便化してやるような仕組みにして、それが上手く機能すれば実施しやすくなると思う。実践施策には「景観社会実験の実施」という項目もあるので、その様なものも活用しながらやるというのが大事ではないか、という様な文言を入れるのも良いかもしれない。
- 【部会長】 オープンカフェのようなものを実施するとやった結果を検証すると、色々なことが分かってきて、景観づくりについて検討すべき項目の洗い出しにも繋がる。
- 【部会長】 次に、「これまでに景観に関する取り組み・活動に参加したことがある市民の割合」について。この割合を増やしたいということだが目標水準を40%に上げることは困難ではという意見が出ている。
- 【委員】 市民意識調査の問13「あなたはこれまでに、景観に関する取り組み・活動に参加したことがありますか」という質問が、この指標に関わってくるが、この意見については、実際にこのアンケートの文言を見た市民の方が、どの様な活動を想定して回答するのかがというところで左右されると思う。例えば、自宅の庭に花を植えてきれいにしているという様なものは、恐らく自分のためだけにやっているつもりだと思うので、その様な取り組みについては、「特に

無い」と答える可能性がある。景観づくり市民サポーターの様な方達は、相当頑張れる人であるので、この様な方々の割合はあまり増えないと思う。そのため、日常的に自分の楽しみ
の範疇で既にやっているような取り組みなど、どんなことが景観の取り組みなのかということ
を周知することが、割合の増加に繋がるのでは。

【委員】 景観のみならず地域の取り組みは、やる人はよくやっている。例えば、地域で何かあれば近
所の方が中心的に皆を啓発して手伝ってあげるとい様なことがある。そういった中心的な
人がいれば呼応する人も出てくるので、中心的な人物をどう育てていくかというのが一番の
キーポイントだろうと思う。

【部会長】 呼応してやっているような方は、ボランティア活動をしていても「あなたはボランティア活
動をされていますか」と聞かれれば、「いや、そんな大それたことはしていません」と答える
かもしれない。景観においても、要は自分の好きで花を並べているだけだという認識。だが、
外から見ればそれがまちに潤いを与えている。だから実は自分のためだけではなくな
っている。取り組んでいる本人から見れば分からないかもしれないが、それを主として見てい
るのは、外を歩いている人なので客観的には人のためにきれいにしているということになるが、
それに取り組んでいる本人が、景観に関する取り組みをしているという認識にはなかなか
ならないかもしれない。

だが、個人的な生活圏の中から「外からの見え方を潤いのあるものにしたい」と思うような
市民を増やしたいということが、この景観計画に掲げる重点目標の意味だとすると、その認
識を持つことが大事であり、そのためには、今後の市民意識調査で設問の仕方を変えていく
ことや、また、気軽にできて自分も楽しいような景観活動というものの普及活動を市民活動
や地域活動を所管している部署と連携して行うことで、変化してくるのではないかと思う。

【委員】 ヨーロッパのまちで窓辺に花を飾る取り組みのように、まちに来た人が歓迎されているよ
うなものは、ちょっといいなと感じるが、日本の場合はそれを意識していない人のほうが多い
ような気がする。

【部会長】 自分は関係なくて外から見えるように置いている。ああいうことは良いことだという意識は
皆あるようだ。ちゃんと公共のために、「外の人のために潤いのある空間をつくらうとするも
のなのだ」という社会的合意があり、それが景観に対する取り組みということになると思う
のだが、日本では、その様な意識が少し少ないのかもしれない。普及活動というのはそうい
うことが大事である。市民から市民への普及啓発だとなお良いだろう。

近年、自治会の取り組みも低調になりつつある傾向なので、その様な取り組みを啓発し、か
つ、それが景観に関する取り組みでもあるのだということを言い添えるということが、かな
りこの数字を上げていくことになるのではないか。

【委員】 市民による景観づくりの活動については、気軽な取り組みと時間をかけて行う取り組みがあ
ると思うので、例えば今後はこれらの目標値をそれぞれ分けて考えて、日常的にやっている
取り組みも景観に入っているということを知ってもらえることもできるのでは。

【部会長】 今のは総括的な観点でもあると思う。目標値の設定の仕方や実践施策の進め方なども区別し
て考えていくという態度が必要ではないかと思う。

【委員】 成果指標にある「河川や池など水辺の空間づくりに積極的に取り組むべきと考える市民の割
合」なども大事な指標に入れたいような気がする。河川は市の管轄外のものがほとんどで
あるため、将来、東京都と景観の議論があった際に、こういった意見があるのだというのは非

常に武器になると思う。河川整備に関する取り組みは、既に何か行われているのか。

【事務局】 境川は今、護岸改修や水辺に降りられるような階段をつくっている。鶴見川でも鶴川駅のそばにその様な場所がある。野津田にも水辺に降りられる場所があって、土日には家族連れが土手にシートを敷いてご飯を食べたりしているようである。

【部会長】 市民意識調査の中でも川沿いの清掃を市民で行うのであれば参加したいと答えている方がいたように、重要な項目だと思う。

【委員】 市が行っている樹木などの管理について、単純に状態や苦情などに配慮して行われたものはあまり見映えが良くない所が多くあるように感じる。

【委員】 市民からの要望と、長年行政が主導で行ってきたから手を引きにくいという一面もあるかもしれないが、できることは市民にやってもらうという様な体制をどうつくるかというのは重要である。身近な景観への意識も、そうやって自分たちが少しずつ関わることで生まれるのではないか。

【部会長】 成果指標の「アダプト・ア・ロード事業管理協定締結数」や「地域景観資源の登録数」などに関わる内容だと思う。これも周知・啓発の問題になるのではないか。

【委員】 成果指標「違反広告物除却数」については、除却数が減ったから良くなったという意味で良いか。

【事務局】 そうである。見た目の問題で景観にそぐわないものも撤去している。

【部会長】 そういうことであれば、除却数が減ったというのは良い傾向だという認識で良いと思う。本日のまとめだが、重要だと思われる4つの成果指標について、それぞれ幾つかご意見をいただいた。全体に関わることとしては、まず、啓発や周知ということをもっと行い、その際には、庁内連携によって色々な部署と協力しながら市民団体や個人にアプローチしていくことが必要ではないかということだとであった。

もう一つ、景観の取り組みの中でも気軽な取り組みと、重たい取り組みがあるということについて、届け出制度など個別の取り組みとは区別して施策を考えていく、あるいは評価の仕方を考えていく必要があるのではないかという意見が出た。

本日の議論を踏まえた上で、評価・検証作業をまとめるようにしたい。

終了